

第3 問題作成部会の見解

地 理 A

1 出題教科・科目の問題作成の方針（再掲）

地理に関わる事象を多面的・多角的に考察する過程を重視する。地理的な見方や考え方を働かせて、地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を多面的・多角的に考察したり、地理的な諸課題の解決に向けて構想したりする力を求める。問題の作成に当たっては、思考の過程に重きを置きながら、地域を様々なスケールから捉える問題や、地理的な諸事象に対して知識を基に推論したり、資料を基に検証したりする問題、系統地理と地誌の両分野を関連付けた問題などを含めて検討する。

2 各問題の出題意図と解答結果

第1問 学習指導要領「地理A」の「(1)現代世界の特色と諸課題の地理的考察」における「ア 地球儀や地図からとらえる現代世界」,「(2)生活圏の諸課題の地理的考察」における「ア 日常生活と結び付いた地図」,「イ 自然環境と防災」に関する大問である。問1はホモロサイン(グード)図法の知識と利用,問2は基本的な読図方法を理解し,立体的に想像ができるか,問3は潟湖が陸地化されるプロセス,砂丘の土地利用,海岸部の変化を,航空写真と地形図の情報から読解する力と思考する力,問4は日本の東西南北の気候配列の違いを把握したうえで,気温と降水量で地域差が生じる場所が異なること,季節による差の現れ方が異なることを主題図から思考できるか,問5は河川周辺で発生する代表的な土砂災害の土石流,地すべり,洪水が,各地形条件下でどのように差が生じるかを考察する力,問6は,火山が噴出した際に発生する噴石をとりあげ,その現象の特徴や被害を理解し,どのような対策が取り組まれているのかを問うた。

第2問 学習指導要領の「地理A」の「(1)現代世界の特色と諸課題の地理的考察」における「イ 世界の生活・文化の多様性」に関する大問である。具体的には,高校生の当該単位における探究場面を想定し,世界の生活・文化の多様性やその背景を考察する問いである。問1はカロリー供給量の内訳から,食文化の時代変化を考える問いである。問2は具体的な料理の写真と食材から,自然環境を想起して考える問いである。問3は食文化の変容をもたらす要因について,社会・経済環境から考える問いである。問4は食器のデザインから読み取れる地域文化を考える問いである。問5はプラスチック素材の生産量をめぐる主題図から,食文化の変容の背景となる国際的な経済状況の変化を考察する問いである。問6は食文化の多様性を生み出す生活環境を調べる際の調査の有り方と明らかになる内容を考える問いである。大問全体はおおむね標準からやや易で構成されていた。

第3問 学習指導要領「地理A」の「(1)現代世界の特色と諸課題の地理的考察」における「イ 世界の生活・文化の多様性」に関する大問である。具体的には,「ヨーロッパの生活・文化」をテーマに,ヨーロッパの自然環境,人間活動及び社会状況を取り上げ,主題図や統計図表などの資料から,多面的・多角的に地域的特色を見出す力を問うた。問1は自然環境,問2は内陸水運,問3は農業の地域性,問4は人の往来からみたヨーロッパにおける地域性を,問5,問6はEU域内の地域格差とEUの国際的な位置について問うた。「地理A」で学習した成果を活用して上記のテーマを考察できるよう,単純な知識を問うのではなく,様々な形式のデー

タの読み取りと分析から地域的特色を考察させる作業を小問中に含めた。

第4問 学習指導要領「地理A」の「(1)現代世界の特色と諸課題の地理的考察」における「ウ 地球的課題の地理的考察」に関する大問である。世界におけるさまざまな地球的課題の実態と解決を考えさせる問題としている。具体的には、出生・死亡、栄養不足や肥満の地域的な表れ方、過剰な資源開発とその課題、発展途上国への国際的な支援、航空貨物輸送の国・地域による差異、化石燃料の国際的な移動などについて、図表やデータの読み取りから、多面的・多角的に考察する力を問うた。「A 地球的課題」と「B 世界の結びつき」にわけ、「A 地球的課題」では、出生率と死亡率の推移を考える問、栄養不足・肥満人口・穀物自給率の関係を考える問い、水資源の過剰利用とそれに伴う問題、先進国から発展途上国への支援を取り上げた。「B 世界の結びつき」では、航空貨物輸送の国・地域による問、石油の輸入と輸出の比較問題を取り上げた。単純な知識を問うのではなく、統計や主題図をはじめとしたデータの読み取りと分析から、地理的事象や課題さらにその解決策について考察させる内容を小問中に含めた。

第5問 学習指導要領「地理A」の「(2)生活圏の諸課題の地理的考察」における「ウ 生活圏の地理的な諸課題と地域調査」に関する大問である。埼玉県入間市とその周辺を取り上げ、都市開発と森林保全・活用の実態、人びとの生活・産業の関わりをテーマとし、大都市圏郊外の特徴と課題を多角的に見出す力を問うた。問1は地形分類の理解を踏まえ地形断面の判別、問2は雑木林・里山の歴史的な利用と利活用の有り方、問3は埼玉県の茶生産の特徴の読み取り、問4は環状の高速道路の開通に伴う地域の変化、問5は土地利用図から都市化とその地域差の読み取り、問6は大都市郊外において生じうる問題と、それを解決するのに適した対策を考察する力を問うた。大問全体の平均得点率はおおむね標準的であるが、正答率は問3、問6は高かった。本問は地理Bとの共通問題であるが、「地理A」と「地理B」の得点率に特段の差はみられなかった。また、地域的に有利・不利の差は生じなかったと判断される。

3 自己評価及び出題に対する反響・意見等についての見解

第1問 地図投影法や等高線の読み取り、陰影起伏図、主題図、写真などセンター試験でも出題されてきた基本的な知識や技能を問うたものが多く、難易度は標準的であると評価された。問1はセンター試験で定番であった地図投影法に関する小問であると評価された。問2は難易度がやや高いという評価と易問であるとの評価に分かれたが、立体的な表現で地形を示したため、比較的易問と考える。問3は各選択肢の内容を空中写真や地図と照合しながら確認することができれば、容易に正誤判定を行えると評価された。問4は日本海側が濃く着色されている④を冬季の降雪と容易に判断できると指摘された。問5は標準的な難易度であり今後の教材として利用しやすい模式図と評価された。問6は「被害軽減を目的に含む」という文言が、直接的な被害の軽減を目指すものだけを選択するのか、間接的なものも含めて選択するのかが明確でないと指摘された。全体は、地理的技能を用いて自然環境から地域の防災を考察する授業の流れが表現されていると評価され、今後も実際の授業の流れを意識した作問を心掛けたい。

第2問 世界の生活・文化の多様性について、食器や調理器具などを含んだ人間生活の様々な部分に文化が表れていることを考えさせる点や、図や資料の読み取りを通じた思考力、判断力を問う点が評価された。問1は各地域の自然環境や経済水準の知識を基に、経済発展に伴う食生活の変化を考察する良問と評価された。問2は複数の知識が必要な標準的な問題と評価された。問3は食文化が伝播する地理的・時代的背景の知識をもとに、食のグローバル化を考察する問題と評価された。問4は地域ごとの農産物、宗教などの知識を基に、写真と文の組合せを判断する良問と評価された。問5は各国の経済発展と国際分業に関する知識を基に、プラスチック

素材の産地の変化とその要因を考察する問題と評価された。問6は授業後の探究的な学びについて、調査内容とその仮説の組合せを判断する良問と評価された。全体は、標準的な分量・難易度であり、統一された題材で探究的に学習する姿勢が読み取れると評価された。今後も探究場面を想定した問題の作成について、さまざまな可能性を探っていくことを目指したい。

第3問 図表や主題図、景観写真などの読み取りを通じて、地理的技能や思考力を問う問題から構成され、知識を問うだけで終わらずに図の読み取りも踏まえた上で判定させていた点が評価された。問1は写真の選定意図やサイズについて改善を求める意見があった。より適切な写真使用の在り方を検討したい。問2はがやや易しいと評価された。問3は、センター試験時代からみられる単純な出題方法だが、受験者の努力が反映されやすく、解答時間を軽減できるという意味で効果的で、必要な形式の問いであると評価された。問4はヨーロッパの自然環境や経済格差をふまえた考察につながる問と評価された。問5、問6は、従来のヨーロッパ地誌の問題で意外と出題のみられなかったEUに関する問いであったが、基本的な理解と図の読み取りができれば解答できると評価された。6問とも、難易度は標準的か易しめで、解きやすい問題であると評価された。探究的な学習プロセスを意識した作問とともに、今後も、シンプルかつ効果的な出題の在り方についても検討していきたい。

第4問 地球的課題と世界の結びつきに関して、様々な観点から世界の現状を図表等から読み取り、思考力・判断力を発揮して考察する問題から構成されていると評価された。また、特定の分野に偏るよりは、こうした大問の作成の方が望ましいと評価された。問1は標準的な出題で、難易度も高くないと評価された。問2はアフリカについて、穀物自給率の高位に当てはまる国が多く判別しづらいと評価された。問3は図の読み取りが必要な下線部判定の選択肢が1つしかなく、知識だけで判定できる選択肢が多いのは改善の余地があると評価された。問4は文章を読めば常識の範囲内で解答可能で平易な問題と評価された。問5は発展途上国と先進国での航空機利用の差異、国土面積の広さ等も踏まえ総合的に考察する良問と評価された。問6は一つの地域の特徴を手掛かりに、他の地域についても考察させる良問と評価された一方、問5と出題形式が類似していると指摘された。今後は、大問全体のバランスをふまえた出題を心がけたい。

第5問 図表や写真などを用いながら、地域調査により対象地域を多角的に捉え、そこで見出された地域の課題の解決策を構想するという、実際の授業展開事例に近い探究的な学習過程となっていると評価された。一方で、やや易しめであり、対象地域の範囲が比較的狭いと指摘された。問1は地形断面図の見せ方に新しさがあるほか、地形図と地形断面図から想像力を働かせて考察させようとする点が評価された。問2は地域調査の設問としてふさわしいものの、雑木林に関する知識が広く認知されていないと懸念が示された。問3は資料が充実していた半面、正答の判断が容易であったと評価された。問4は地理的な技能、見方や考え方を問う工夫された良問と評価された。問5は標準的な難易度と評価された。問6は、課題解決を志向した、更に深い学びへ向かう姿勢が示されていると評価された。「地理B」との共通問題であるが、「地理A」の受験者が不利になったという評価はなかった。地域調査の問題として、地域の特色を明らかにしつつ、取り上げる空間スケールに留意しながら、適切な資料や過程を踏まえて思考力・判断力を判別できる作問を追究したい。

4 ま と め

- (1) 「地理A」の学習内容の範囲として適切であると指摘された。問題作成方針にもおおむね沿った問題となっており、高等学校の授業等の指針になっているとされたが、一部で「地理A」

の内容から踏み込んだ点も指摘された。探究型の問題については、実際の授業場面や学習過程に沿っていると評価された。防災や地球的課題を中心に「地理総合」への移行をふまえつつ、受験者が身に付けた知識・技能を生かし、地理的な見方や考え方の応用ができているかを判別できる問題作成を、今後も継続して取り組んでいきたい。

(2) 難易度については、高等学校教科担当教員・教育研究団体等からも評価されたように、全体的には基礎的な知識・理解をもとに思考・判断する問題が多く、適切であったと考える。バランスが良く、分量は適切であり、受験者が取り組みやすい問題となっていたと評価された。一部に資料を活用せずとも解ける問題があり、資料の適切な利活用の検討が要請された。科目間の調整や本試験及び追・再試験間のバランスを取りつつ、これらの点について引き続き留意をした問題作成を進めたい。

(3) 出題範囲については、知識の質や思考力・判断力・表現力等、さらにそれらに基づいて将来を構想する問題で構成されており、適切だったと評価された。一方で、「地理総合」を念頭に置いた防災の問題の増加が要望された。また、探究型の問題のような課題発見から考察、解決の構想といったプロセスを踏んだ問題や、社会との結び付きを意識した問題の増加も指摘された。出題意図の明確化や情報の読み取りやすさ、扱うスケールを含め、今後も重要な課題として検討を続けていきたい。

(4) 全体として、高等学校教科担当教員・教育研究団体等からは学習指導要領の趣旨に沿った問題作成であると評価された。「地理総合」は「地理A」と内容が重なる部分が多くあり、本試験はモデルとしての役割を果たせたと考えられる。今後も、作業的、体験的な学習を通じて地理的な技能や思考力・判断力を養うことを重視する問題作成を継続していきたい。

地 理 B

1 出題教科・科目の問題作成の方針（再掲）

地理に関わる事象を多面的・多角的に考察する過程を重視する。地理的な見方や考え方を働かせて、地理に関わる事象の意味や意義，特色や相互の関連を多面的・多角的に考察したり，地理的な諸課題の解決に向けて構想したりする力を求める。問題の作成に当たっては，思考の過程に重きを置きながら，地域を様々なスケールから捉える問題や，地理的な諸事象に対して知識を基に推論したり，資料を基に検証したりする問題，系統地理と地誌の両分野を関連付けた問題などを含めて検討する。

2 各問題の出題意図と解答結果

第1問 学習指導要領「地理B」の「(2) 現代世界の系統地理的考察」における「ア 自然環境」に関する大問である。世界の自然環境と自然災害の特色を地図，グラフから読み取り，背景となる地形や気候，植生などの知識をもとに考察することを意図している。問1と問2は大地形とグローバルな気候についての問いである。問3は，九州から本州の植生の垂直分布についての問いである。問4は，地形形成の時・空間スケールに関する問いである。問5は主題図をもとに，南アジアと東南アジアにおける自然地理的特徴と自然災害の地域性について問う問いである。問6は，河川の水文的特徴と自然災害についての問いである。いずれの問も主題図や統計などをもとに，世界と日本の自然環境と自然災害の地理的特徴について考察する内容となっている。グローバルスケール，国単位，河川流域など様々な空間スケールの現象を小問中に織り込んだ。大問全体の平均得点率は標準よりもやや低く，やや難しい大問であった。

第2問 学習指導要領「地理B」の「(2) 現代世界の系統地理的考察」における「イ 資源，産業」に関する大問である。場面設定型の設問とし，持続可能な資源利用と産業の有り方をテーマに，世界の資源の分布や産業の現状と課題について，資料を用いて多面的・多角的に思考する探究活動を想定して問いを配列した。問1では，資源，産業に関する指標の世界分布図を使い，資源利用，産業について問うた。問2では，アメリカ合衆国の石油のデータから，その変化の背景や事象の関連性について問うた。問3では，工業付加価値額に注目し，工業の実態についての理解度を問うた。問4では，食料の貿易の実態を正しく判断できるかどうかの思考力を問うた。問5では，産業発展に伴う環境変化について，大気汚染の実情について問うた。最後に，問6で全体を振り返り，今後の課題を考えるという構成にした。問2，問5，問6の正答率がかなり高く，問5，問6は，識別性も低かった。問全体でみれば，全体的に易問であった。

第3問 「地理B」学習指導要領「(2) 現代世界の系統地理的考察」の「ウ 人口，都市・村落，「エ 生活文化，民族・宗教」に関する大問である。都市の成立と発展過程の各様相や，世界，日本国内の地域間，日本の都市という各スケールにおける地域の特徴や結び付きについての理解や考察について中心に配置した。具体的には，問1では都市の成立基盤となった機能を，図を俯瞰させて大局的な理解力を測ることを企図した。問2では日本における都市や村落の人口や生活の様子の特徴を問うた。問3では特定の民族集団の文化のグローバル化を都市構造の変化と重ねた中で考察できるかを問うた。問4では各国の外国籍人口の特徴を，労働力移動のパターンなどをもとに問うた。問5では日本国内における都道府県別・年齢別の人口移動の特徴を問うた。問6では世界宗教であるキリスト教内の宗派構成について，世界の地域別の特徴を

問うことを企図した。正答率が高い小問が多かった一方で、問6の正答率が低くなったことで、大問全体での正答率はやや高くなった。

第4問 学習指導要領「地理B」の「(3)現代世界の地誌的考察」における、「イ 現代世界の諸地域」に関する大問である。具体的には、南アメリカを取り上げ、自然環境や産業、貿易等の面から主題図や図表の資料等を通じて、多様なスケールから特色を見出す力を問うた。問1では南アメリカの気候について同緯度の3地点の雨温図を判断する力、問2で地域性が表れる3つの指標統計データから作成されたカルトグラムを読みとり考察する力、問3で農業のうち伝統的作物であるコーヒーと生産増加が著しい大豆の利用や作付の変化を考察する力、問4で南アメリカの北部・南部・内陸部の国と、欧米、南アメリカ域内間の貿易について思考する力、問5で4種類の鉱産物の生産シェアと増加率を考える力、問6で首都（ブエノスアイレスとブラジリア）の都市形成の特徴を判断する力を問うた。大問全体の平均得点率はやや低く、各小問の正答率をみると、問3で高かった一方で、問1で低かった。

第5問 学習指導要領「地理B」の「(1)様々な地図と地理的技能」における「イ 地図の活用と地域調査」に関する大問である。埼玉県入間市とその周辺を取り上げ、都市開発と森林保全・活用の実態、人びとの生活・産業の関わりをテーマとし、大都市圏郊外の特徴と課題を多角的に見出す力を問う内容を出題した。問1では地形分類の理解を踏まえ地形断面の判別を問うた。問2では、雑木林・里山の歴史的な利用と利活用の有り方を問うた。問3は、埼玉県の茶生産の特徴を読み取る問いである。問4では、環状の高速道路の開通に伴う地域の変化を問うた。問5は、土地利用図から都市化とその地域差を読み取る問いである。問6は、大都市郊外において生じうる問題と、それを解決するのに適した対策を考察する問いである。大問全体の平均得点率はおおむね標準的であるが、正答率は問3、問6において高かった。また、地域的に有利・不利の差は生じなかったと判断される。

3 自己評価及び出題に対する反響・意見等についての見解

第1問 世界の自然環境と自然災害の特色に関する大問であり、地理的諸事象に関する知識をもとに、諸地域の地形や気候、自然災害について多面的・多角的に考察する問題で構成されているとの評価を受けた。一方で、世界全体を大観した小問がなかったことも指摘された。小問別では、問1は、ペルー沖の沈み込むプレート境界に関する知識が必要で、やや難しいと評価された。問2は、インド洋の季節風が理解できていれば正解に至り、標準的な難易度であると評価された。問3は、日本の植生に関する問いが出されるケースは少ないが、日本の自然環境の理解度を測る上で良問であると評価された。問4は、知識、思考力、判断力を活用する問いで、非常に良問との評価を受けた。一方で、解答に要する時間が長く難易度が高いと評価された。問5は共通テストらしい問いであり、難易度も標準的であるという評価を受けた。問6は、共通テストへの移行において目指された見方・考え方を重視した問いであり、資料や文章量ともに適切であると評価された。一方で、水位の変化を受験者がイメージしにくく、やや難易度が高いという指摘を受けた。全体としては、思考力を必要とする共通テスト的な問の構成であると評価されたが、初見の資料により思考力を求めることを意識した問は、やや難易度が高くなった。今後、出題内容や難易度のバランスにも配慮しつつ、思考力を問うことのできる問題作成に努めたい。

第2問 探究的な学習を想定した大問で、世界各国や日本における特徴や近年の変化、それに対する取組などについて学びを深めていくプロセスが示されており、扱っている主題はバランスがとれていると評価を得た。小問別では、問1は、世界地図を用いたことについては良い評価

であったが、問い方に工夫が必要と指摘があった。問2は、図を用いずとも解けると指摘された。問3は、背景を述べた文の判別は容易、内訳のグラフの表現は工夫が必要ではあるが、その判別も容易という評価であった。問4は、流線の太さを量ではなく、順位で示している意図が不明という評価であった。問5は、図が無くとも解答可能という評価であった。問6は、一般的な常識で解くことができる問という評価であった。全体を通して、問いの難易度は低く、問いの出し方、図表の示し方については工夫が足りないという指摘であった。一方で、既習事項を基に多面的に考察するかたちになっていたことは肯定的な評価であった。こうした評価を踏まえて、今後の作問の際に配慮していきたい。

第3問 設問全体では、読み取りや考察を中心に、標準的な内容で構成されているとされた。問1は普段見慣れない資料から、地理的な情報や背景を読み取ることの意図は評価されたが、濃淡や大きさなどの表現には懸念が付された。問2は都市圏内外の地域に対する地理的思考を問う良問とされた。問3の趣旨には好意的な評価を得られたものの、読み取り中心の設問であったことに課題が残った。問4は国際間の労働力の移動パターンの知識が問われる標準的な難易度の問いと評価された。問5は標準的な難易度で国内の人口移動を見る良問とされたが、時間を要する可能性が指摘された。問6は、出題意図はおおむね評価されたが、図から情報を不足なく全て読み取る力が必要だった点が、やや難と評価された。全体としては適切な問題で構成され、問1や問3のような新規な素材に対しては積極的な評価が得られたが、出題意図の明確化や、読み取り中心の問題になっていることについて意見が付された。興味関心を引き起こす題材を生かしつつ、学習成果や地理的思考力・判断力を適切に判断できる問題作成を、今後も目指していきたい。

第4問 地理的事象を多面的・多角的に問い、出題形式や資料、設問数は適切との評価を受けた一方で、幅広い知識と正確な理解が必要な設問があるとの指摘を受けた。小問別では、問1は、アマゾン川流域範囲と海岸砂漠のイメージから正答を導き出すことを意図したが、気候区分の正確な理解が必要との評価を受けた。問2は、南アメリカの各種指標をカルトグラムで表現した点が地理的な見方を体現した良問と評価された。問3は、南アメリカにおける大豆生産の拡大は時事的な内容であると評価を受けた。問4は、地球上の位置により貿易量の差が表れることを問うたが、輸出入物や国家間の関係をもとに地理的思考力を試す問いと評価を受けた。一方で割合を示す矢印の差異が分りにくいとの指摘も受けた。問5は、鉱産資源の分布図以外のアプローチによる出題の工夫がみられた点が評価されたが、難易度は評価が分かれた。問6は、計画都市ブラジリアの街路形態等の知識が定着していれば易しいと評価された。全体では、出題内容や方式は標準的と評価を受けた。今後は主題図を読み取りやすくするなどの工夫を凝らしたい。

第5問 (「地理A」と共通のため省略。)

4 ま と め

- (1) 「地理B」の学習指導要領の目標と内容に沿っており、全問題を通して高等学校での学習内容を踏まえた問題で構成されたとの評価を得た。場面設定型の問題では、探究の過程で授業場面や学習過程に沿った出題がされていると評された。その一方で、社会に向けた「地理B」の意義を発信する問題や、身近な話題に注目した問題が減少したことが指摘された。分野間のバランスや資料・出題形式のバランスに加えて、「地理」が持つ意義やコンピテンシーに留意した問題作成の有り方を引き続き検討していきたい。
- (2) 平均点は66.17点と、本試験「地理B」とほぼ同じであったが、本試よりも難易度はやや

易と評価された。難易度としてはおおむね適切であったと考える。本試験と比較して図や写真、グラフ、表などの資料で新たな試みがみられる一方、従来のような作り込みすぎた問題もみられると指摘を受けた。本試験と追・再試験の難易度を合わせるとともに、「世界史B」や「日本史B」と調整し、引き続き適切な難易度の問題作成を目指したい。

- (3) 全体として、「地理B」で身に付ける見方・考え方を問う工夫がなされていると評価された。解答に要する時間などについても、おおむね改善が図られているとされた。一方、地理院地図を含む地形図利用や、世界全図を含めた様々なスケールに根ざした地図利用について意見が付された。また、地理的なコンピテンシーを問う要素が薄い問題があることに要望があった。図表の精選や視認性の向上を含め、これらの点は今後も改善を進めていきたい。
- (4) 出題のバランスは適切であり、「地理B」の内容の知識・技能をもとに思考力・判断力を問うものになっていた。小問によっては、「地理B」で身に付ける見方・考え方が工夫されていると評価された。一方、初見となる資料で複雑な思考・判断をする問題で、解答時間等を踏まえて過度に多くならないようにすることも要請された。受験者が高等学校で身に付けた資質・能力を問う形式は、引き続きより精緻なものとなるよう検討していきたい。
- (5) 全体として、高等学校教科担当教員・教育研究団体等からは学習指導要領の趣旨に沿った問題作成であり、資料の利用や出題バランスなどはおおむね評価された試験であったといえる。「地理総合」「地理探究」へ移行する中で、知識・技能と思考・判断の両面を適切に問うことができ、かつ受験者にとって過度な負担のない難易度・分量で出題する努力を継続していきたい。